

故 望月巖先生を偲んで

総和剣道クラブ 会長 古谷芳和

平成 22 年 8 月 4 日に逝去されました、故望月巖先生のご功績の一端をここで紹介させていただき、心より追悼の意を表したいと思えます。

先生は、剣道を通じて「青少年の健全育成」を目標に、昭和 38 年当時の教育委員会の指導の元、総和剣道クラブの前身となる「剣道教室」を、青年団の仲間 5 人と立ち上げました。

総和中学校体育館で行っていた剣道教室も、昭和 43 年から名称を「総和剣道クラブ」と代え、今日に至りますが、日ごろより、青少年の育成を考えていた先生は、たくさんの活動を推進されました。

夏季錬成合宿では、親元を離れて寝泊りすることで、自立心と協調性を養い、心身ともに成長する活動として取り入れました。

また、県外剣道団体と交流することで、技術の向上と会員相互の連携の強化を目的とする「研修旅行」を実施しました。この研修旅行は、本年福島県富岡町少年剣道団との交流で、31 回目を迎えました。

そして、この近県剣道大会は、地元の剣士に活動の場を広げるために、昭和 47 年に第 1 回大会を開催しました。当初より小学生から一般までの部門を設け進めてきましたが、近年では、関東地区はもとより、長野県、静岡県、山形県など、遠方からの参加団体が増え、近県とは名ばかりで、選手・審判・役員等合計で 2000 名を超える大会と成長しました。

このような活動が認められ、昭和 53 年には、「優良社会教育団体」として、「文部大臣賞」を受ける団体にまでなりました。

以上は、生涯剣道を実践されていた先生の功績の一端で、69 歳で生涯を閉じられる最後の時まで、総和剣道クラブの会長のを始め、茨城県剣道連盟及びその傘下の組織の要職に就かれていました。また、剣道に限らず、生涯教育の先駆者として、体育指導委員長や体育協会副会長などを長年にわたり歴任し、地域の青少年健全育成の一翼を担っていました。

このような立派な功績を残された先生の遺志を引き継ぎ、このたび、後任として私が総和剣道クラブの会長の役目を担うことになりましたが、私も望月門下の一員で、先生とは師弟関係にあたります。何分にも経験も浅い未熟者ですが、先生がまいてくださった種を大きく育てるため、後進の指導と、地域の発展に尽力をつくすことが私の使命です。

そして、クラブ員一同とともに団結して総和剣道クラブの発展にまい進してまいりますので、関係者の皆様方には、今まで以上のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。